

日々の祈り

2021年11月22日(月)~27日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるまに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・都城城南教会の歩みが祝されるように。(九州連合長老会の交わりを感謝して)
- ・病や弱さ、困難を抱えている兄弟姉妹のために。
- ・主に仕える伝道者のために。(謝恩日を覚えて)

22日(月)

ルカによる福音書 12章 31節

ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。イエスさまの御言葉です。わたしたちは様々なことを思い煩い、不安になり、欠けを見つめ、必要が満たされることを求めます。しかしまず求めるべきは、イエスさまによって与えられる神さまとの交わり、神の国です。父なる神さまは、喜んでわたしたちの必要を満たし、最も良いものを備え、導いて下さるお方です。この神さまが共にいて下さるなら、わたしたちがどんなに小さくとも、貧しくとも、弱くとも、何も恐れることはありません。

23日(火)

詩編 34編 9~11節

味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。主の聖なる人々よ、主を恐れ敬え。主を畏れる人には何も欠けることがない。若獅子は獲物がなくて飢えても／主に求める人には良いものの欠けることがない。

わたしたちは、身を寄せるところを間違えてはいけません。一見頼りになりそうなものが、世の中には満ちあふれています。わたしたちが頼りになると信じ込んでいるものもたくさんあります。しかし、本当に身を寄せるべきは、主なる神さまの御許しかありません。すべての恵みは、神さまから出ているものだからです。

「主に求める人には良いものの欠けることがない。」

24日(水)

イザヤ書 9章 1節

闇の中を歩む民は、大いなる光を見／死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。

アドベントが近づいてきました。アドベントは、神の御子イエスさまのご降誕の恵みを覚えるクリスマスに備えて、悔い改めと感謝を持って歩む期間です。クリスマスは、闇の中を歩む民に、大いなる光が現れた出来事です。死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた出来事です。今や、この大いなる光がわたしたちの上にまばゆく輝いています。すべての闇に捕らわれている人々が、この光をはっきりと仰ぎ見て、恵みの光に照らされることが出来ますように。

25日(木)

ルカによる福音書 2章 6節

ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

天地創造の御業に参加され、すべてを支配し、命の源なる、永遠から永遠にいます神の御子。この方が、わたしたち人間と共にいてくださるインマヌエルの神となるために、どのようなお姿で来られたか。どれだけ低くなられたか。そのことを見つめたいのです。マリアとヨセフのお世話にならなければ生きることができず、布に包まれ、あたたかい布団もなく、飼い葉桶の中に寝かされた乳飲み子。神の御子は、そうしてご自分自身を、わたしたちに差し出して下さったのです。

26日(金)

ゼカリヤ書 9章 9節

娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者／高ぶることなく、ろばに乗って来る／雌ろばの子であるろばに乗って。

次の主日礼拝の御言葉です。やがて来られる王についての預言です。その方はきらびやかな軍馬に跨って来られるのではなく、「高ぶることなく、ろばに乗って来る」と言われています。この「あなたの王」は、力を行使して君臨する王ではなく、自ら低くなり、僕に仕え、ご自分の命を与えることによって、あなたの王となります。

27日(土)

ルカによる福音書 19章 33~35節

ろばの子をほどいていると、その持ち主たちが、「なぜ、子ろばをほどくのか」と言った。二人は、「主がお入り用なのです」と言った。そして、子ろばをイエスのところに引いて来て、その上に自分の服をかけ、イエスをお乗せした。

明日の主日礼拝の御言葉です。これは、イエスさまがエルサレムに入られる場面です。神の御子イエスさまは、まことの王となられるために、エルサレムへ向かわれます。この平和の王は、人々を打ち倒して制圧し、支配者となられるではありません。貧弱で小さい子ろばに乗り、苦しみを受け、辱めを受け、十字架に架けられ、殺されることによって、人々を罪から救い出し、罪と死の支配を打ち破り、ご自分の恵みの支配を打ち立てられる王なのです。